

## 認知症ケアの取り組み ～独自のアセスメントシートを活用した実践報告と職員の行動の変化～

発表者：特別養護老人ホーム芦花ホーム 石井文代 廣島慎一郎  
共同研究者：特別養護老人ホーム芦花ホーム 認知症研究チーム

### <研究目的>

介護保険がスタートして、当施設へ入所している利用者の9割以上の方が認知症となっている。認知症高齢者の介護においては、その方の生活歴や時代背景などが重要な情報となるが、自施設で今まで使用していた三団体方式のシートでは、身体的な特徴が中心のアセスメントとなり、事故予防・身体的なニーズ中心の介護計画になってしまい、個別的な計画にならない現状があった。

この課題を改善するため、認知症介護で重要な生活歴や時代背景などに、より焦点を当てられるアセスメントが重要であり必要である。認知症の方でも施設で自分らしく生活していただけるよう、認知症に関するケアを見直していき改善に取り組むと同時に、より良い対応などを様々なケースを通じて研究を行っていく事を目的とした。

今回発表する内容は22年度に、せたがや福社區民学会で発表した独自のアセスメントシートを用いたケアプランの作成。また、利用者の変化と職員の行動、意識の変化等、事例を交えた研究発表である。

### <実践内容>

1. 研修の参加、自主勉強会の実践
2. 対象者のケア「その人をみる」を実践
3. 2を用いた職員個々によるアセスメント
4. ケアプラン作成

### <結果>

- ・認知症ケアの知識、及び対応方法の統一
- ・職員の行動、意識の変化
- ・ケアプラン作成後の利用者の変化

### <考察>

- ・利用者のアセスメントは、職員個々により違いがあり、その違いを一つにすることで、より利用者のニーズを把握できるのではないかな？
- ・一人を着目することで、他利用者への関わり方にも変化がみられるのではなかな？

### <課題>

- ・対応の統一に向けての周知、徹底
- ・ニーズの分析からプランに落とし込む際の課題の抽出
- ・利用者に適したアセスメントシートの活用
- ・すべての利用者に対しての関わり方